

# 平成 20 年度決算報告書

 80. Love  
TOKYO FM  
株式会社エフエム東京

平成 21 年 5 月 27 日

報道各位

株式会社エフエム東京

### 平成 20 年度業績の概況

当会計年度におけるわが国経済は、米国の金融危機に端を発した世界同時不況、株式・為替市場の混乱等の影響で国内においても企業収益が急速に悪化、個人消費も雇用環境の悪化や景況への不安感から低調に推移しました。広告市場への影響も大きく、平成 20 年の日本の広告費(総電通推定)は 6 兆 6,926 億円(前年比 4.7%減)と 5 年ぶりに減少し、このうち新聞・雑誌・テレビ・ラジオの所謂マスコミ 4 媒体については、前年比 7.6%減と 4 年連続の減少となり、メディア環境をめぐる構造変革の中、既存メディア事業者にとって厳しい経営環境が続きました。

このような状況の中、当連結会計年度の当社グループの売上高は 228 億 1 百万円(前期比 12.3%減)となりましたが、連結子会社間の合併等、グループ事業構造の見直しに取り組んだ結果、営業利益は 5 億 1 千 3 百万円(前期比 127.8%増)、経常利益は 4 億 4 千万円(前期比 99.6%増)、当期純利益は 4 億 1 千万円(前期は 1 億 8 千 2 百万円の損失)となりました。

当社単体の業績につきましては、放送事業収入の減少及びイベントの主催契約見直しの影響等により売上高が 150 億 7 千 6 百万円(前期比 12.3%減)となり、営業利益は 8 億 5 千 3 百万円(前期比 6.4%減)、経常利益は 10 億 4 千 4 百万円(前期比 8.9%増)、当期純利益は 11 億 6 千 4 百万円(前期比 67.1%増)となりました。

#### 〈放送事業活動〉

FM 放送事業においては、「アース&ヒューマン・コンシャス」の理念の下、FM 放送の原点に帰った、人々の心に感動と共感を呼び起こす高品質な番組開発に引続き取り組みました。その姿勢をより明確にするため、当社の周波数「80.0MHz」にちなんで新しいコミュニケーション・キャッチフレーズ「80.Love」(エイティ ポイント ラブ)を導入、ロゴマーク、ステーションジングルも一新し、独自の視点(“ポイント”)で愛情・思いやり(“ラブ”)を持った放送を発信することにより、ステーションブランドのさらなる強化を図っています。

年間の主な取り組みとしては、平日ワイドゾーンを一新、「クロノス」(月～金曜 5:00～8:30)、「Blue Ocean」(月～金曜 8:30～10:55)、「ONCE」(月～木曜 11:30～13:50 金曜 11:30～13:00)、「DIARY」(月～木曜 14:00～16:00)の3つのワイド番組をスタートさせました。土曜・日曜のゾーンでは、「サタデー・ウェイティング・バー」(土曜 17:00～17:55)、「Melodious Library」(日曜 10:00～10:30)、「あ、安部礼司」(日曜 17:00～17:55)など、高いクリエイティビティと FM 放送らしさを兼ね備えた番組が引き続きリスナーからの高い支持を得ています。またウィリアムズ症候群の障害を持つ少女の音楽を通じた成長を描いた特別番組「苑子ちゃんの手紙」(5 月 29 日 21:00～21:55)が社団法人日本民間放送連盟実施の「第 4 回日本放送文化大賞」ラジオ部門準グランプリを受賞しました。

8 月の北京オリンピックでは、注目の野球・女子マラソン競技の実況中継のほか、日本人

選手の活躍やその素顔を当社取材スタッフが FM 放送ならではの視点で現地からレポートしました。また、3月には、FM 受信機能付携帯電話（FM ケータイ）による新たな FM 聴取スタイルの普及・促進を目指す「MEET THE MUSIC 2009」キャンペーンを実施、人気男性デュオ コブクロのライブイベント「コブクロ・ファンフェスタ」の様を全国民放 FM53 局にて同時生放送（3月 22 日 19：00～20：00）しました。

番組連動のクロスメディア展開においては、ラジオドラマ「あ、安部礼司」の脚本集第 2 弾『あ、安部礼司 脚本集 SEASON2』がインターネットによる予約開始と同時に Amazon 和書総合ランキング等で 1 位を獲得したほか、10 代リスナーから高い支持を集める「SCHOOL OF LOCK!」（月～木曜 22:00～23:55 金曜 22：00～22：55、23：30～23：55）では、榊原冬舎とのコラボレーションにより 10 代限定の文学新人賞「蒼き賞」を創設し、第 1 回グランプリ受賞作品として 16 歳の少女ベニの『孤独星』を出版しました。同番組では 10 代限定のライブフェスティバル「閃光ライオット」を開催、その出場者の音源を集めたコンピレーションアルバムがオリコン・インディーズチャートで 1 位を獲得しました。この他にも、放送連動商品の企画開発・販売を目的に 4 月に設立した新会社エフエムマーケティング㈱（持分法適用関連会社）が、番組の公式ノートをコンビニエンスストア向けのオリジナル商品として開発するなど、グループ各社の連携により、放送と連動した多角的な事業展開を積極推進しています。

デジタル時代に向けた「移動受信用地上放送」（マルチメディア放送）に関しては、総務省が設置した「携帯端末向けマルチメディア放送サービス等の在り方に関する懇談会」の報告書（平成 20 年 7 月）において、「地方ブロック向けマルチメディア放送」を平成 23 年 7 月の地上テレビジョン放送完全デジタル化後の VHF・LOW 帯（現行の 1～3 チャンネル）において実現させる方向性が示されました。これを受け、放送方式について、当社を始めとする民放 FM・AM 各社と NHK により、当社が推進する「ISDB-Tsb の拡張」案に一本化して総務省に共同提案がなされました。また、当社が推進役となり、VHF・LOW 帯において放送事業者として参画を希望する事業者・団体に呼び掛け、平成 21 年 2 月に「VHF・LOW 帯マルチメディア放送推進協議会（略称 VL-P）」を発足いたしました。福岡ユビキタス特区においては、平成 21 年 3 月に本免許が交付され、当社は、自治体・新規参入企業とともに 3 セグメント・マルチメディア放送の実証実験活動を本格的に進めております。今後は、総務省情報通信審議会によって放送方式が決定、その後事業者の公募を経て平成 22 年 7 月頃には免許事業者が決定する見込となっており、平成 23 年 7 月以降の放送開始に向け、放送免許の取得を目指してまいります。

#### 〈企画・制作事業活動〉

企画・制作事業においては、世界各国での大反響を受け前年度よりスタートした「BLUEMAN GROUP in TOKYO」のロングラン公演、映画「スター・ウォーズ」日本公開 30 周年を記念したイベント「スター・ウォーズ・セレブレーション」、アメリカを代表するバレエ団である「アメリカン・バレエ・シアター」の日本公演、ミュージカル「リバー・ダンス」など、エンタテインメント界で話題となった数多くの大

型イベントを実施しました。また、「サザンオールスターズ」30周年記念公演を始め、「SMAP」、「B'z」、「浜崎あゆみ」、「GLAY」、「安室奈美恵」、「福山雅治」、「山下達郎」、「サラ・ブライトマン」、「エリック・クラプトン」などの国内外の人気アーティストのコンサートを主催したほか、クラシック音楽分野でも「アンドレア・ボチェッリ」、「ポール・ポッツ」、「ウィーン少年合唱団」の来日公演を手掛け、ファンの高い評価を得ました。

19回目を迎えた「アースデー・コンサート」では、絢香、BONNIE PINK、ダニエル・パウターを日本武道館に迎え、世界に向け“アースコンシャス”メッセージを発信しました。

放送連動のオリジナル企画開発に注力する中、前述の「SCHOOL OF LOCK!」発の10代限定のロックフェスティバル「閃光ライオット」や学園祭ライブツアー「YOUNG FLAG! '08」が大きな反響を呼びました。また、ラジオドラマ「あ、安部礼司」の主人公の結婚披露パーティーでは、有料チケット2,000枚が即時に完売、シルエットのみの披露宴がラジオの特性を活かした試みとして大きな話題となりました。

映画製作においては、「デトロイト・メタル・シティ」、「私は貝になりたい」に参画、いずれも当年度の日本映画界を代表するヒット作となりました。

#### 〈インフォメーションプロバイダー事業活動〉

当社連結子会社ジグノシステムジャパン(株)では、主力の携帯電話向けモバイルコンテンツ事業において、携帯電話端末の高機能化に対応した電子書籍、着せ替えコンテンツ、デコレーションメールツール等の“リッチコンテンツ”の開発に注力いたしました。また、自社の携帯サイトの開発・運営のノウハウを活かしたモバイルソリューション提供の分野でも、映画配給会社の公式携帯サイトの制作・運営、インターネット上のWebストレージサービスへの携帯電話によるアクセスを可能にするシステムの開発受託等、新しい取り組みを行いました。

なお、当社は、平成20年3月7日から平成20年4月18日を買付期間としてジグノシステムジャパン(株)の普通株式及び新株予約権に対する公開買付けを実施、続いて9月17日付で同社との間で金銭を対価とする株式交換を実施し、同社を当社の完全(100%)子会社といたしました。その後、ジグノシステムジャパン(株)は、平成21年1月1日付で当社グループにおいてインターネットによるブロードバンド配信事業等を運営するティーエフエム・インタラクティブ(株)を吸収合併いたしました。合併後のジグノシステムジャパン(株)に対する当社の出資比率は97.4%となっております。

#### 〈その他の事業活動〉

創立23年目を迎えたTOKYO FM少年合唱団は、東京ミッドタウンで行われた「子供地球基金」創立20周年記念イベントへの出演、当社主催公演のため来日した「ウィーン少年合唱団」との交流会の実施、中国・上海で行われた国際児童合唱コンクールへの参加等、多彩な活動を行いました。

以上

## 前期比較損益計算書（連結）

平成20年4月1日～平成21年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成21年3月期 (H20. 4. 1～H21. 3. 31)	平成20年3月期 (H19. 4. 1～H20. 3. 31)	前期比
売上高	22,801,730	25,989,890	87.7%
売上原価	15,177,990	18,333,055	82.8%
売上総利益	7,623,740	7,656,834	99.6%
販売費及び一般管理費	7,110,237	7,431,423	95.7%
（内のれん償却額）	104,112	152,827	68.1%
営業利益	513,503	225,411	227.8%
（売上高営業利益率）	2.3%	0.9%	
営業外収益	214,082	250,478	85.5%
営業外費用	286,995	255,169	112.5%
経常利益	440,590	220,720	199.6%
（売上高経常利益率）	1.9%	0.8%	
特別利益	223,200	251,988	88.6%
特別損失	1,095,096	890,996	122.9%
税金等調整前純利益	△ 431,305	△ 418,288	—
法人税、住民税及び事業税	41,798	528,346	7.9%
法人税等調整額	△ 792,575	△ 19,179	—
少数株主利益	△ 91,160	△ 744,898	—
当期純利益	410,631	△ 182,557	—

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 前期比較損益計算書（当社単体）

平成20年4月1日～平成21年3月31日

(単位:千円)

勘定科目	平成21年3月期 (H20. 4. 1～H21. 3. 31)	平成20年3月期 (H19. 4. 1～H20. 3. 31)	前期比
売上高	15,076,455	17,182,164	87.7%
売上原価	9,747,746	11,569,112	84.3%
売上総利益	5,328,709	5,613,051	94.9%
販売費及び一般管理費	4,474,839	4,700,327	95.2%
営業利益	853,870	912,724	93.6%
(売上高営業利益率)	5.7%	5.3%	
営業外収益	406,241	260,933	155.7%
営業外費用	215,155	214,066	100.5%
経常利益	1,044,956	959,592	108.9%
(売上高経常利益率)	6.9%	5.6%	
特別利益	61,013	236,600	25.8%
特別損失	491,707	182,991	268.7%
税引前当期純利益	614,262	1,013,200	60.6%
法人税、住民税及び事業税	14,935	305,474	4.9%
法人税等調整額	△ 564,762	11,067	—
当期純利益	1,164,088	696,658	167.1%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 前期比較売上高内訳書(当社単体)

平成20年4月1日～平成21年3月31日

(単位:千円)

	平成21年3月期 (H20.4.1～H21.3.31)	平成20年3月期 (H19.4.1～H20.3.31)	前期比
売上高	15,076,455	17,182,164	87.7%
放送事業収入	13,587,677	14,940,079	90.9%
放送収入	9,399,812	10,177,199	92.4%
タイム放送料	7,109,902	7,374,459	96.4%
スポット放送料	2,289,910	2,802,739	81.7%
制作収入	2,204,855	2,149,791	102.6%
その他	1,983,010	2,613,088	75.9%
企画事業収入	730,125	1,462,869	49.9%
賃貸事業収入	578,929	582,233	99.4%
その他事業収入	179,723	196,982	91.2%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 44期(通期)広告会社取り扱い順位

### <総合順位>

44期	43期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	4	アサツーディ・ケイ
4	3	ビデオプロモーション
5	13	オフィスフラッグス
6	11	オリコム
7	9	京橋エイジェンシー
8	6	毎日広告社
9	10	三晃社
10	7	ガイアコミュニケーションズ

### <タイム>

44期	43期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	11	アサツーディ・ケイ
4	3	ビデオプロモーション
5	7	オフィスフラッグス
6	4	コスモ・コミュニケーションズ
7	6	オリコム
8	13	ガイアコミュニケーションズ
9	8	マッキャンエリクソン
10	57	電通名鉄コミュニケーションズ

### <スポット>

44期	43期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	5	三晃社
4	6	京橋エイジェンシー
5	3	アサツーディ・ケイ
6	4	毎日広告社
7	12	東急エージェンシー
8	8	アイアンドエス・ビービーディーオー
9	21	オフィスフラッグス
10	7	ガイアコミュニケーションズ



# 平成21年3月期決算短信

平成21年5月27日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富木田 道臣

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員総務局長 (氏名) 小林 哲 TEL (03)3221-0080

定時株主総会開催予定日 平成21年6月23日 配当支払開始予定日 平成21年6月24日

(百万円未満切捨て)

## 1. 21年3月の連結業績 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期	22,801	△ 12.3	513	127.8	440	99.6	410	—
20年3月期	25,989	△ 20.1	225	△ 63.2	220	△ 55.5	△ 182	—

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益		自己資本 当期純利益率		総資産 経常利益率		売上高 営業利益率	
	円	銭	円	銭	%		%		%	
21年3月期	458	32	—	—	1.8		1.1		2.3	
20年3月期	△ 203	72	—	—	△ 0.8		0.5		0.9	

(参考) 持分法投資損益 21年3月期 74百万円 20年3月期 81百万円

### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
21年3月期	37,432		23,252		61.2		25,588 50	
20年3月期	45,136		26,975		50.7		25,547 86	

(参考) 自己資本 21年3月期 22,926百万円 20年3月期 22,889百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金			配当金総額 (年間) 百万円	配当性向 (連結) %	純資産 配当率(連結) %
	中間期末	期末	年間			
	円 銭	円 銭	円 銭			
20年3月期	30 00	30 00	60 00	54	—	0.2
21年3月期	30 00	30 00	60 00	54	13.1	0.2

## 3. 22年3月期の連結業績予想 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

通 期	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
	21,054	△ 7.7	918	78.9	836	89.9	508	23.8	567	25

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 有
- (2) 連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されるもの）
- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 無
- (3) 発行済株式数（普通株式）
- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 21年3月期 900,000株 20年3月期 900,000株
- ② 期末自己株式数 21年3月期 4,045株 20年3月期 4,045株

(参考) 個別業績の概要

1. 21年3月期の個別業績（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期	15,076	△ 12.3	853	△ 6.4	1,044	8.9	1,164	67.1
20年3月期	17,182	△ 24.7	912	△ 3.7	959	△ 13.8	696	—

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
21年3月期	1,293	43	—	—
20年3月期	774	07	—	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
21年3月期	35,456		23,831		67.2	26,479	80	
20年3月期	38,359		23,007		60.0	25,564	17	

2. 22年3月期の個別業績予想（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

通 期	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
	13,972	△ 7.3	774	△ 9.3	704	△ 32.6	605	△ 48.0	672	36